



ダイナミックアクティブパスを使用してミラーリング機能を強化しており、スループットと復元力の向上により、ノード間の相互接続の利用率を最大限に高める拡張性と能力を実現しています。

## ●2. vSphere 管理下でのハイパーコンバインドインフラストラクチャー (HCI) 展開の自動化

VMware vSphere 管理下で HCI インストールを簡素化し、自動化する新しいウィザードを追加。汎用の VVol サポートを提供し、ノードの追加とスケーリングを容易にしながら vSphere からストレージポリシー制御を提供します。

## ●3. Microsoft Windows テクノロジーへの対応、Microsoft Azure との連携

DataCore の強力なソフトウェア機能だけでなく Windows Server 2016 など最新の Microsoft Windows テクノロジーを活用することができ、さらに Azure Cloud と共に活用して災害復旧、バックアップ、アーカイブ、クラウドストレージの使用といった、ハイブリッドクラウドレプリケーションが可能となります。

## ●4. コンテナのサポートのための Kubernetes 活用

サーバーのクラスターを跨って複数のコンテナ(Kubernetes を含む)を統合するコラボレーションをサポート。

## ●5. エンタープライズ API の統合とコラボレーション

REST (REpresentational State Transfer) エンタープライズ API の統合を拡張。構成とリソース管理を REST の 200 以上の新しい操作メソッドによって、既に提供されている構成監視操作に拡張します。

### <PSP7 の意義>

本バージョンは、マルチコア・パラレル I/O 処理がパフォーマンスと生産性の拡大に向かっていく DataCore のテクノロジービジョンに継続して基づいており、仮想 I/O における“data anywhere”のスケールアウトテクノロジーへのさらなる進歩の土台となるものです。新しいマルチウェイ・ミラーリングの設計はノードをスケールアウトし、フェイルセーフの回復力を追加、データがどこにあるのかを知る必要性を自動化により取り去ります。こうしたテクノロジーは、データサービスのさらなる自動化と組み合わせ、将来を見据えたインフラストラクチャーの鍵となります。それはまた、今日のより厳しいパフォーマンス、稼働時間、データの配置場所の要件に合致するコスト効果となり、顧客企業のビジネスを競合他社より先に進む支援に繋がります。

### <DataCore の仮想 I/O 技術>

DataCore は仮想 I/O テクノロジーのロードマップを拡張し続けています。仮想 I/O は、ノードをスケールアウトし、自動化によってデータの場所を知る必要性を抽象化するように設計されています。本バージョン PSP7 で初めて N ウェイ・ミラーリングが導入され、3 方向ミラーリングとストレージリソースの自動ロードバランシングがサポートされます。この新しい強力な機能と、DataCore の自動階層化およびパラレル I/O が総合してデータローカリティの利点を最大限に活用、アプリケーションサービスレベルとパフォーマンスの応答性を大幅に向上させます。

### <DataCore の SDS> ソフトウェアディファインドの機敏性と選択の自由から生まれるビジネスの成果

DataCore は SDS に最も早く取り組みました。それはデータサービスとストレージ容量の管理を抽象化および自動化し、お客様をベンダーのしほりから解放し、他の追従を許さないパフォーマンスとデータ保護を、比較できる他のソリューションと比べるとわずかな費用で実現します。このテクノロジーは、世界各国で導入済みの数千ものお客様サイトで証明されているように、顧客企業が、変化に対応し、実装の選択を管理し、

フラッシュ、NVMe、クラウドといった最新テクノロジーをビジネスアプリケーションの停止なしに追加することを容易にします。

DataCore の共同設立者兼 CEO である George Teixeira は以下のように述べています。

「デジタル化のこの時代において、インフラの近代化は長い道のりです。老朽化したものをリプレースする応急処置のソリューションを提供する他社と異なり、当社のアプローチはサイロ化したインフラを分解し、お客様にサーバーSAN、ソフトウェアディファインドストレージ、ハイパーコンバージド、ハイブリッドクラウドに跨るエントリーポイントと共通の管理サービスの選択を提供します。同時にストレージへの既存の投資は保護します。」 また続けて、

「当社はソフトウェアディファインドを、企業が依存するアプリケーションには変化の影響を与えないようにしながら、新旧のテクノロジーを統合する現代化の手段であり、デジタルトランスフォーメーションの架け橋だと位置づけます。」

### 【DataCore Software について】

DataCore Software（本社：米国フロリダ州、CEO：ジョージ・テクセイラ（George Teixeira））は、企業、官公庁などが以前の投資や既存のインフラストラクチャーを無駄にすることなく、新しい IT の発展成果を取り入れていくことを支援します。DataCore は約 20 年前からソフトウェアに基づくストレージ仮想化のパイオニアであり、記録的なパフォーマンスを樹立しながらヘテロ環境でのストレージの管理に柔軟性と機敏性を継続してもたらしています。

DataCore の主力製品である「SANsymphony™」は単一の管理とサービス基準でさまざまなストレージをプール化、一元化します。「Hyperconverged Virtual SAN」はクラスター内の内蔵または DAS ストレージを使用して同様のサービスを提供します。DataCore の「Parallel I/O テクノロジー」はマルチコアサーバーの能力を活用し、IT 業界の最大の未解決の問題といえる「I/O ボトルネック」を克服します。2017 年 10 月に一般販売を開始した「DataCore MaxParallel™」シリーズは、MaxParallel for SQL Server を皮切りに、この Parallel I/O テクノロジーを適用してアプリケーションに特化した問題を解消します。

DataCore Software は 1998 年の設立で、現在全世界で 10,000 以上のお客様に導入され稼働しています。DataCore のソリューションは Lenovo 社のようなハードウェアベンダーからターンキーアプライアンスとしても提供されています。

※DataCore、DataCore ロゴ、MaxParallel、SANsymphony は DataCore Software Corporation の商標または登録商標です。文中に記載の DataCore の他のその他の製品またはサービス名、ロゴは DataCore Software Corporation の商標です。文中で言及されるその他の製品名、サービス名、会社名はすべてそれぞれの所有者に帰属する商標である可能性があります。

#### 一般読者からのお問い合わせ先

データコア・ソフトウェア株式会社  
TEL：03-6695-7013（担当：鏑塚、田中、小川）  
E-mail：DataCore-Japan-Info@datacore.com  
<http://www.datacore.jp/>

#### 報道関係のお問い合わせ先

データコア・ソフトウェア広報事務局  
TEL：03-4405-8773 担当：河端、川口  
E-mail：datacore@alsarpp.co.jp